

生活のルール改正から1年



開成校新聞

「TPO」へ文言変更

生活のルールの改正から4月で1年となる。服装や身だしなみに関する文言が「TPO」に代わった。本号では、生活のルールが改正された経緯や改正による影響を4面に渡って報じる。

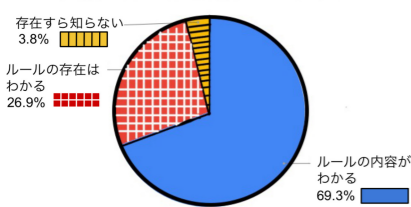
今回の生活のルールの改正では、服装や身だしなみについて「華美な服装や装飾、頭髪等の加工は認めない」の文言が削除され、「TPOに応じた服装や身だしなみを意識する」という文言に変更となった。また昼食等

○生活のルール改正のポイント○

服装や身だしなみ	華美な服装や装飾、頭髪等の加工は認めない	TPOに応じた服装や身だしなみを意識する
ガム	規定なし	禁止
スマホの使用・アルバイト	禁止	禁止(変更なし)

▲改正のポイント

生活のルールを知っていますか？



▲「生活のルールをどれぐらい知っていますか？」に対する生徒の回答

生徒・保護者から様々な意見 改正前アンケート

生徒支援部は「昨年、生徒と保護者に対して生活のルールに関するアンケートを行った。1つ目の質問である、「生活のルールについて知っていますか」に対して、ルールの内容を知らないと答えた人が約70%、存在を知っているが内容はわから

ないと答えた人が約25%、存在を知らない人は約5%いた。2つ目の質問である、「華美な服装や装飾、頭髪等への加工は認めない」というルールは必要か」に対して、約35%の生徒と約56%の保護者が残すべきだと回答した。学校は勉強する場所という意見や授業中の集中力が乱れるという意見が理由として挙げられた。反対に

「『周りの人がどう感じるか』が前提」

生徒支援部長 斉藤先生にインタビュー



▲インタビューを受ける斉藤先生

開成生として必要な考え方

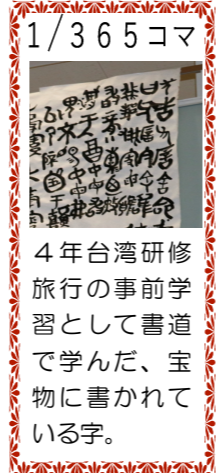
生活のルール改正にあたって学校側はどのように考えたのか、また開成生はTPOを意識できているのかについて、生徒支援部長の斉藤先生にインタビューを行った。斉藤先生は「学校の考え方が伝わりやすい表現にした」と話し、「大半の開成生はTPOを意識できている」と評価した。

Q1 生活のルールを改正した際に、考えていたことや感じていたことを教えてください。 A1 開成の生活のルールは他の学校に比べると元々抽象的で、どう考えていいのかわかりづらいという生徒や保護者の声がありました。その際に「華美な」という表現を使用することで考え方がすくなく感じているのではないかと感じてい

ように振る舞うのかという学校の考え方に合わせた伝わりやすい表現にしました。自分で責任を持たなければいけません。開成の生徒は、それをきちんと考えられるだろうし、学校としてもそれを期待していました。 Q2 開成生はTPOを意識できていると思いますか。 A2 大きくていいです。ただ中には「自由な服装」と勘違いしている人もいます。自由という考え方は、学校の考え方と異なります。周りの人がどう感じるかというのがまず前提にあります。個性を大事にするのもそうですが、他の人の個性も大事にする、バランスが必要で、TPOを意識できていないと、その場にそぐわなかったり、不快に思う人が出てきたりします。TPOを守れていない人自身が感じ取ること

も大切です。 Q3 髪を染めたり、ピアスを開けたりするのはTPOに適していると思いますか。 A3 それについては考え続けるべきだと思います。TPOはその状況に応じて

発行 開成中等新聞局 発行責任者 宮崎 * * 制作者 清水 鶴木 小川 佐賀野 菅原



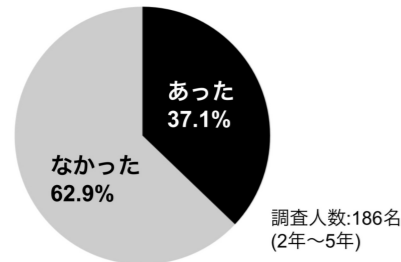
考えるもので、同じ場や同じ関係性でも状況が違えば、変わってきます。例えば、担任の先生と話すことになったときに内容や状況によって、いつもはフランクに話していても、きちんとしなければいけない場面はあります。それもTPOです。だから、振る舞いも服装もその点では同じだと思えます。「ピアスだからTPOに合っていない」などということではなくて、ピアスなども服装の一部ですが、装飾なども含めて「振る舞い」になってきます。自分をどう表すかというのが個性の尊重で、自分だけを尊重し

思いやりのある人に

ているのではないだろうか。私たちは普段から私服登校という自由が認められているからこそ、どうか他の人の受け取り方を考えた「思いやりのある人」になってほしいと思う。一方で、生徒が主体的に考えるのにも限界はある。「TPOに応じた服装」の一例を学校が示すことも一つの方法ではないか。それが生徒の成長にも繋がります。(6年清水)

「不快な思いをさせない服装」 「空気を読んだ服装」 生徒アンケート 186人が回答

生活のルールの改正によって「髪」「ピアス等の装飾品」「服装」に変化がありましたか



アンケート結果

アンケートでは、生活のルールの改正による変化や、変化した理由および変化しなかった理由、そして「TPOに応じた服装」とは何かについて調査した。

髪

生活のルールの改正によって髪に変化があったと答えたのは16・1%30人だった。髪を染めたりパーマをかけたりしたそうだ。理由として「印象を変えたかった」「染めてみたかった」「自分に合う髪型を探したかった」という声があった。またヘアアイロンが面倒なので縮毛矯正をしたという人もいた。一方で変化がなかったと答えた人は「髪を染めるお金がない」「親から反対された」「興味がない」を理由として挙げている。

服装

服装に変化があったと答えたのは4・8%9人だった。自分が心地よいと感じる服を着るようになったり、外出時の服と学校用の服の区別を無くしたり、おしゃれに気を

使おうようになったりしたという。服装が変化した理由として「周りの目を気にしないようになった」「友達に影響された」「TPOに適した服装だと考えたから」を挙げている。一方で変化がなかったと答えた生徒からは「変えようと思わなかった」「改正前から好きな服を着ていた」「こだわりのない」といった声が上がっていた。

その他

髪や装飾品、服装以外にもネイルやメイクをするようになった生徒もいた。一方で62・9%(117人)の生徒は髪や装飾品、服装において変化しなかったと回答した。生活のルールの改正を契機に髪や装飾品、服装を変化させた生徒がいる一方で、変化がなかった生徒が多かったと語る。

TPOの基準

「TPOに応じた服装とはどのような服装だと思いますか」という質問では、生徒から様々な意見が挙がったが、その中でも多かったのは「他の人を不快にさせない服装」「状況(外部発表、儀式など)に配慮した服装」「場の空気を乱さない服装」といった意見だった。そのような服装の一例として4アイテムが挙げられていた。また「学習に支障が出ない服装」「気温に応じた服装」のように学校生活を意識した意見も見られた。一方で「人によって基準が異なるので定義するのは難しい」という声もあった。露出の多い服装に不快感を示した意見もあり、「TPOに応じた服装」の解釈が生徒によって異なることが明らかとなった。

「TPOに合っているか 説明できる服装」 PT会長佐藤格郎さん



▲取材に応じる佐藤会長

生活のルールの改正に関する三者会談に参加したPT会長佐藤格郎さんにインタビューを行った。佐藤会長は改正前のルールに違和感があったと言いつつ、「他の人に不快な思いをさせないことが説明できる服装」がTPOに応じた服装だと意見を述べた。

Q1 生活のルールを改正した際に、考えていたことや感じていたことを教えてください。

A1 「様々な考え方があっていい」という世の中の流れの中で、改正前の「華美な服装」という表現に違和感がありました。華美な服装というのには人によって異なると思います。例えば鮮やかな色遣いの民族衣装を華美だから不適切である」と判断するのは違うのではないのでしょうか。「TPOに応じた服装」に文言を変更することは自己表現の幅が広がるという点においても、TPOを学ぶという点においても良い機会になるという意見を三者協議で出しました。「TPOに応じた服装」というのは答えが一つではなく、開成の考え方に合っているとします。TPOというのは学校だけでなく社会に出てからも必要な考え方です。業界によってもTPOの基準は異なります。自分の進路に合わせて、社会に出るための準備期間としての6年間にしてほしいです。

Q2 「TPOに応じた服装」とはどのような服装だと考えていますか。

A2 TPOに応じた服装とは、自分の服装がTPOに合っていると説明できる服装だと思います。もし説明できないのなら、それは規定に逆らっているだけではないでしょうか。ルールから外れて自己主張をしたくなる気持ちも分かりますが、TPOというのは「周りを不快にさせない」というのが大前提だと思います。私の職場でも「働きやすい服装」「市民に不快な思いをさせない服装」が呼びかけられています。これは開成の生活のルールと似ていて、自分が着たい服装とその場のルールがあっているかどうかということを意識する必要があります。ただ、ワイシャツのボタンが3つぐらい開いていたり、ネ

クタイがきちんと締まっていなかったりするような服装をしている人に対する声は聞きにくいですが、「だらしない印象かな」と言うのも一つの方法だと思えますし、先生方も苦労されていると思います。

Q3 髪を染めたり、ピアスを開けたりすることはTPOに適していると思いますか。

A3 場面によってはいいと思います。私の職場でも髪を染めたりピアスを開けたりする人がいて、段々と社会の許容度も上がってきています。大切なのは、仮に不快に思う人がいたら、なぜこの格好をして良いと思っているのか、その理由を説明し、理解してもらう姿勢を持つことだと思います。

開成高校 私服の歴史 生徒が起こした自由化の波

開成中等の前身である開成高校には当初制服があった。しかし昭和46年に「制服の自由化を7月23日までに実施する」という決定が下された。賛成率は80%に達した。賛成派

この決定は、一部の生徒からの提案が発端となり、教師や生徒会での慎重な議論と話し合いを重ねた結果、生徒全員が同意として自由化することになったというものである。開成高校30周年誌によると、開成高校第三代校長の笠岡正次氏は「自由を得たことによる責任は自分が負わねばなら

なかったというものである。制服の自由化については、生徒の間で賛成意見が圧倒的に多く、調査によればその賛成率は80%に達した。賛成派であった。そのため学校は、制服自由化後も従来の制服を着ることを選ぶことができるようにし、それを基本的な服装として認める方針を示した。また、服を選ぶ際には、華美な服装や不適切な服装を避けるように指示が出されていた。

昭和46年
制服の自由化を決定。
従来の服を標準服として残すと決定。
服装に関する指導方針を
父母に説明。

昭和55年
私服生徒は約8割。

昭和47年
私服生徒は約2割。

▲私服歴史年表